

私は、2014年9月から英国ロンドン大学のキングス・カレッジ・ロンドン（KCL）に在外研究にきています。ロンドン大学は、たくさんのカレッジから構成されますが、KCLは、同じくロンドン大学を構成するユニバーシティー・カレッジ・ロンドン（UCL）やロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）などとともにラッセル・グループに加入する研究型の大学として知られ、複数の学部を擁し、これまでに12名のノーベル賞受賞者を輩出しています。

私が在籍するKCLの紹介には、ロンドン大学について少しの説明が必要かもしれません。

KCLは、ジェレミ・ベンサムによって1826年に設立されたロンドン・ユニバーシティー（後のUCL）について1829年に英国王ジョージ4世の勅許により設立されたイングランドでは4番目に古い大学です。当時、イングランドには、オックスフォード大学とケンブリッジ大学がすでに存在していましたが、両大学は、男性・イギリス国教徒・貴族出身者のみに入学が許されるという入学条件を課していました。そこで、UCLとKCLは、「万人に開かれた大学」を実現するために、性別・宗教・人種・政治的思想による入学差別を撤廃した大学として設立されました。しかし、当時のイングランドでは、学位の発行権限が与えられるのは、1つの都市で1つの機関のみという制約があり、政府がUCLとKCLとにそれぞれ学位を発行する権限を与えることはできなかったため、1836年に2つの大学がカレッジになるという形でロンドン大学が発足し、その後、所属カレッジの増減を経て現在に至ります。そのため、ロンドン大学は、統一された単体の大学を指すのではなく、ロンドン大学を構成する各カレッジが入学審査・大学運営・人事などについて高い独立性をもつそれぞれ個別の大学の集合を指す総称ということができます。

ところで、KCLは、ロンドン市内中心部のテムズ川沿いに4つ、デンマークヒルに1つのキャンパスを有しますが、私が主に使うサマセット・ハウスとモーガン・ライブラリーは、ストラ



サマセット・ハウス

ンドキャンパスにあり、24時間開館されているため何時でも自由に使うことができます（ロンドンでは、夜中でもナイトバスが走っており、24時間移動の足は確保されています）。ちなみに、私の研究室があるサマセット・ハウスは、サマセット公爵所有の宮殿であった18世紀に建てられた荘厳な建物で、中庭は、春と秋にはロンドン・ファッション・ウィークの会場に、冬にはアイススケートリンクになるなど、多くのイベントの会場として使用されます。また、モーガン・ライブラリーは、テンプル騎士団の本拠地テンプル・チャーチに端を発する四大法学院の2つ（インナー・テンプルとミドル・テンプル）やロイヤル・コート・オブ・ジャスティスがある地区にあり、英国法曹界の聖地とも呼べる場所にあります。そのため、KCLの周辺には、法曹関係者をサポートする店（例えば、法律関係の出版社や法衣の仕立屋など）が点在し、法学者にとってとても興味深い環境がひろがっています。

KCLでは、所属する研究者の自主性が尊重されており、自由に自分の研究をすすめることができますが、大学事務にも図書館にも研究をサポートするためのスタッフがいるなど研究を促進する体制も整っています。また、KCLでは、毎週、何かしらの研究会や講演会が開催されており、私もセミナーやワークショップに参加する機会を得ています。このように、KCLでは、高度な研究を自由に行うことができる環境が保障されており、充実した研究生活を送ることができます。



キングス・カレッジ・ロンドン
写真はすべて筆者撮影



モーガン・ライブラリー